



る本は異なる。よって、星野さんは、入手した本はすべて目を通し、そして、性別・年齢などの注、概要を付け、ホームページに掲載されている。その数は、がんに関するものだけで1,100冊、その他の闘病記などもあり、2,300冊に及ぶ。

次に、90年代後半、“インターネット”という新しいメディアが登場した。さらに、2002年、ブログ(日々更新される日記的なWebサイト)が日本でも流行し今に至る。今では、携帯電話からも簡単に更新でき、「ブログ闘病記」という言葉も生まれた。他方、「インターネットの情報は玉石混淆」とも言われている。ちなみに、グーグルで「胃がん」を検索すると、183万件の情報にヒットする。医学に関することだけだと、国立がん研究センターの「がん情報サービス」などから、正確かつ新しい情報を得ることができるが、患者さんが求めていることは、治療法だけではない。これらの声に応えるために生まれたのが、ライフパレット (<http://lifepalette.jp/>) である。2008年3月、杉山博幸さんと和田ちひろさんの手によって生まれた。患者支援のコミュニティサイトである。開設以来、月間8万人を超える人々が訪問する。

本書は、前半に、がんの部位別に、「パラメディカ」「ライフパレット」お薦めの闘病記が簡単な解説とともに紹介してある。書籍40冊、ブログ30冊。この中から、あなたが探している闘病記が見つかるかもしれない。さらに、これを手がかりに、「パラメディカ」「ライフパレット」から探していただければ、幸いである。後半は、闘病記の変遷などが俯瞰的にまとめられていて、また、ライフパレットの誕生や運営指針、今後への展望などが書かれている。

最後に、著者からのメッセージ。

『闘病記もネット闘病記も、病気とどう向き合えばよいか、これからどう生きていけばよいかという漠然とした不安に寄り添いながら、自分の答えを見つけるのに非常に有用である。あとになって「こんな闘病記もあったのか。あの時この闘病記があったら」とならないようにしたい。』

追記

先日、「パラメディカ」をチェックすると、『店主入院につき、しばらく閉店します!』とあった。星野史雄さんのことが心配である。

会員 井上林太郎